

Institute for Language Education
Aichi University, Nagoya

Boken News

No. 8 February 2003



「ソウル地下街の東洋哲学」

韓国では「占い師」のことを東洋哲学者、その店舗を東洋哲学館と言う。
ソウルの街角には、こうした哲学者が多く、街の風景を形造っている。

CONTENTS

- ・ギリシアの言語と文化
（平尾 節子）..... 2
- ・映画『天国の口、終りの楽園』が描く
メキシコの現在
（丸谷雄一郎）..... 5
- ・エクセター文学紀行
（安藤 聡）..... 6
- 特集・韓国
 - ・韓国における出生時の習慣
（藤森 猛）..... 9
- ・韓国の「姓名」と日本の「氏名」
（常石 希望）..... 10
- ・あっと驚く韓国語の比喩表現
（田川 光照）..... 13

海外最新事情

- ・イギリス
- ・アメリカ
- ・ドイツ
- ・フランス
- ・中国

ギリシアの言語と文化

法学部
平尾 節子



アクロポリスのエレクティオン神殿

ギリシアと言えば、まず、何をイメージしますか？ エーゲ海の青い空と紺碧の海。眩しい太陽の下、白亜の列柱を輝かせるパルテノン神殿やゼウス神殿などの壮大な古代遺跡の数々。いにしへの都市国家の栄光を今に伝えるアクロポリスの丘。ギリシア人と言えば、ソクラテスやアリストテレス、ゼウスやヘラクレスを思い浮かべる。美の女神アフロデイト、知恵の女神アテナなど、オリンポスの12神をめぐる遙か古代のギリシア神話の世界のロマンへの憧れがあるのだろうか。

2002年9月、私は、EU（ヨーロッパ連合）の言語教育政策に関する調査・研究の一環として、EU加盟国であるギリシアの教育省、アテネ大学を訪れた。初めてアテネ空港に降り立った時、いよいよヨーロッパ文明発祥の地への第一歩だと、胸をふくらませた。エアポートバスでシンタグマ（憲法）広場へ向かう途中、映像や写真でなじみのあるアクロポリスの丘がそびえ、町なかに神殿の姿なども目に入り、わくわくした。同時に、高層ビルの谷間を猛スピードで走る車の流れと人々の喧噪。実に活気あれる市内の様子に目をみはった。首都アテネは、ギリシア全人口の約3分の1、約320万人を超える大都会であり、政治・経済・文化・教育の中心地なのである。古代のロマンと現代の息吹きの二面性に接し、感動とともにギリシア研究への好奇心でいっぱいになった。

アクロポリスとは「高い丘上の都市」という意味で、古代には神殿が建てられた聖域、さらにポリス（都市国家）防衛の要塞として二重の役割を果たしていた。

古代アテネ建築物として修復されて残っているのは、パルテノン神殿、アテナ・ニケ神殿とエレクティオン神殿である。

エレクティオンは6人の少女像（カリヤティデス）を柱とした柱廊が張り出していて、美しい「乙女の露台」として名高い。

BC408年に完成し、19Cに復元されている。イオニア式円柱の少女像のオリジナルは、アクロポリス博物館に保管され、1本は大英博物館にある。

教育省のDr. Catherine Zouganeliが予約してくださったテイタニア・ホテルの部屋には美しい花束が届いており、アテネ大学のSofia Papaefthymiou-Lytra教授からも、歓迎のメッセージが届いていた。Dr. Joseph ChyshochosとDr. Ingrid Thompsonからは、直接、歓迎の電話をうけ、ギリシアの人々のWarm hospitalityに感激した。テイタニア・ホテルの屋上には、ルーフ・ガーデンがあり、オリーブの木が茂っている。その名も「オリーブ・ガーデン」というレストランで、スブラキ（白身の魚、羊、牛の肉を串刺しにして炭火でグリルしたもの）、フェタ（真っ白な山羊のチーズ）野菜とオリーブのサラダ、ムサカ（ナスと挽肉にベシャメルソースかけオープンで焼い

たもの)などギリシア料理をご馳走になったのも、楽しい思い出である。ギリシア教育省、アテネ大学を訪問した際には、ギリシアの言語教育改革に関する貴重な資料提供をいただいた。小・中・高校の教員とディスカッションをする機会にも恵まれ、ギリシアの語学教育の現状に接することができた。Sofia Papaefthymiou-Lytra 教授から、応用言語学、英語教授法研究に関する著書を、愛知大学図書館に寄贈いただき感謝している。

世界の中のギリシア語、ギリシア語の中の世界

現在のギリシア語人口は、国の内外合せて、1,800万人足らずで、それほど多いとは言えない。しかし、英語の単語の21%がギリシア語起源で、学術用語では、50%以上になると言われる。例えば、アルファベットという名称自体が、ギリシア語のアルファベットの「A(アルファ)」と「B(ベータ)」を組み合わせたものである。ギリシアでは、今日でも、「 Σ (シグマ)」や「 Θ (スイータ)」といった数学記号などでお馴染みの24のアルファベットが使用されている。これは、紀元前9世紀頃、フェニキア文字をギリシア表記に借用して以来、現在に至るまで変化していない。日本語における外来語の例として「台風」 $\tau\upsilon\phi\omega\nu$ (英語)「 $\tau\upsilon\phi\omega\nu$ (ギリシア語)」がある。インド・ヨーロッパ語族内で共通の語源から生じた語彙もある。例えば、「母」を意味する「 $\mu\epsilon\tau\epsilon\rho$ (ギリシア語) = $mater$ (ラテン語) = $Mutter$ (ドイツ語) = $mother$ (英語)」である。

ギリシアの詩人オディッセアス・エリテイス (1911~1996) が、ノーベル文学賞受賞記念講演 (1979) で、「25世紀の長きにわたって、ただの1世紀たりともギリシア語で詩が書かれなかった時代はない」と述べたのは有名である。ギリシア人は、ギリシア語が、古代から中世を経て近代にまで継続したという事実を重要視している。

このように、ギリシア語は、ヨーロッパ世界のあらゆる言語の基礎となった「古代ギリシア語」と、現在日常的に使われている「デイモテイキ」

ギリシア語のアルファベット			
読み方 (現代語)	大文字 小文字		ラテン表記
			(古代) (現代)
アルファ	A	α	a a
ビータ	B	β	b v
ガンマ	Γ	γ	g g, y
デルタ	Δ	δ	d dh
エプシロン	E	ϵ	e e
ゼータ	Z	ζ	z z
イータ	H	η	e i
スイータ	Θ	θ	th th
イヨータ	I	ι	i i
カッパ	K	κ	k k
ラムダ	Λ	λ	l l
ミー	M	μ	m m
ニー	N	ν	n n
クスイー	Ξ	ξ	ks ks
オミクロン	O	\omicron	o o
ピー	Π	π	p p
ロー	P	ρ	r r
シグマ	Σ	σ	s s, z
タフ	T	τ	t t
イブシロン	Υ	υ	y i
フィー	Φ	ϕ	ph f
ヒー	X	χ	kh h
プスイ	Ψ	ψ	ps ps
オメガ	Ω	ω	o o

と呼ばれる「現代ギリシア語」の二つに分けられる。近年まで、現代ギリシア語も「カサレヴサ(書き言葉)」と「デイモテイキ(話し言葉)」という2本の言語体系状態であった。1976年の教育法によって、口語に基盤を置いた「デイモテイキ」が教育と行政の公式の言語として認められ、1本化された。

ギリシアの外国語教育

EU 統合および社会経済の変化に対応して、ギリシアでは教育の面における変革が進められている。教育の質の向上はギリシアの第1優先事項である。現代ギリシア語は、EU 市民の3~4%が使用する言語であり、ポルトガル語2.6%、デンマーク語2.4%に続く。このような状況の中、外国語教育の強化・充実が推進されている。1993年、教育大臣が、下級中等学校で英語のほかに第2外国語を導入することを提起、実施された。

現在、ギリシアの外国語教育は、小学校4年生(9歳)から英語が必修で、週3時間、年間270時間学習する。中学校(ギムナジウム)では、英語に加えて、第2外国語(フランス語、またはドイツ語)を必修科目として履修する。すなわち、EUの言語を2カ国語学習する。英語の授業時間数は、週2時間、年間180時間である。従って、義務教育の期間における英語の授業時間数は、合計、年間450時間である。高級中等学校(リケイア)日本の高校レベルでは、英語が必修であり、第2外国語として、ドイツ語とフランス語が必修である。

その他の EU の外国語からオランダ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ロシア語、アラビア語、トルコ語が選択履修できる。

評価は、学習到達目標が設定されており、各学校、学年終了時に Listening, Reading, Spoken Interaction, Spoken Production, Writing の 5 領域にわたって、各々、A1, A2, B1, B2, C1, C2 の 6 レベルに評価する。C2 が Native speakers のレベルである。

語学教育のクラス・サイズは平均15名。最多クラスが30名であるが、その場合は2グループに分けて指導する。30名を超えないという基準がある。

EU 教育プログラムへの参加

EU の言語政策の目的は、「EU の多様な言語は文化遺産である」という観点から、多言語・多文化・多民族の共生と発展である。現在 EU の加盟国は15か国であり、11の公用語を有している。「ヨーロッパ言語年2001」の目標は、Pluri-lingualism であり、Pluri-culturalism である。複数言語「1 + 2」すなわち「母語プラス EU の 2 か国語以上」の習得がギリシアにおいても推進されているのである。

「ソクラテス」(Socrates) : 総合的教育計画、
「リンガ」(Lingua) : 外国語教育計画に基づいて、小学校における「早期学習」から「生涯学習」にいたるまで、「1 + 2」の複数言語の学習が盛んである。「エラスムス」(Erasmus) 計画は、大学生・教員・研究者の相互交流推進計画であり、単位互換制・登録料免除のシステムのもと、マルチ・リンガルのヨーロッパ市民の育成を目指して実践されている。各国間の留学生を2010年には300万人にすることを目標とし、2004年200億ユーロの予算を計上している。

ギリシアの青年と、他の EU 諸国の若者との交流が増加し、「青年交流プログラム」の推進と、ヨーロッパ市場における雇用の機会に関する情報の組織的提供の拡大により、外国語学習へのモチベーションが高まっている。アテネ大学図書館で親しくなった学生は Target language の英語で論

文執筆中とのことであった。シンタグマ広場で教育省への道を尋ねた時も、街角での道案内も、英語であった。広場を前にしてそびえる国会議事堂は、近代ギリシアの初代国王、オット - の王宮として建てられたドリア式の大大理石の柱が印象深い建物である。南側前面には、無名戦士の墓がある。クリーム色の美しい外観を背景にカメラのシャッターを押してくれた青年の英語も、その笑顔とともにさわやかであった。

ギリシア神話での最高神ゼウスの祭礼時に開催されたオリンピア競技は、現在のオリンピック大会の源でもある。2004年8月、アテネで「古代オリンピア」が蘇り、世界の人々を迎えて再現される。1896年の「近代オリンピック」発祥の地への108年ぶりの「里帰り」である。その対応に向けても、今、アテネは外国語学習熱が加熱している。

古代ギリシア文明は、ヨーロッパ文明の基盤をなしてきた。現代ギリシア国家は、古代ギリシアの継承者として、ヨーロッパ統合のチャレンジに直面する。現代ギリシア語を EU の公用語の一つとして、外国の人々に学習を奨励し、また、古代ギリシア語を文化継承と発展のために学習する。古代ギリシア演劇では、現在もセリフに古代ギリシア語が使われることがある。日常使っていない言葉をギリシア人は理解できるのかと思われるが、今でも、古代ギリシア語は、学校教育において必修科目として、教えられているのである。ここに、ギリシア人の「古代ギリシア人の末裔としての我々」という意識がある。古代と現代との二つの視座から、立体的にギリシアが見えてくると感じたギリシア訪問であった。

映画『天国の口、終りの楽園』が描くメキシコの現在

経営学部
丸谷雄一郎

「天国の口、終りの楽園」は2001年度のメキシコ国内興行収入第1位の作品であり、ヴェネチア国際映画祭最優秀脚本賞（監督と弟との共同脚本）、最優秀新人賞（主演の2人が受賞）を獲得し、米国ゴールデン・グローブ賞外国語映画賞にもノミネートされた。監督はハリウッドで活躍するアルフォンソ・キュアロンである。

映画はメキシコ上流家庭の少年2人（フリオとテノッチ）と少年のテノッチの年上の従兄弟の妻ルイサの小旅行を描くロードムービーである。フリオとテノッチは親友同士で、高校卒業後大学までの夏休みに暇をもてあましていた。ある日、テノッチの親戚の結婚式があり、少年達は従兄弟の妻ルイサと出会う。彼女は夫の仕事の関係でメキシコへ渡ってきたばかりのスペイン生まれの美しい大人の女性であった。少年達はルイサを「天国の口、終りの楽園」という海岸に行く予定なので、一緒に行かないかと冗談で誘う。彼女はその時は断るが、夫の浮気の告白にショックを受け、少年達の冗談に乗る。彼らも後に引けなくなり、3人は旅に出る。

旅はメキシコシティから始まり、近郊の都市ブエブラ、貧しいが美しい街オアハカを通り、カリブ海に面する美しい海岸サンベルナベへと、山から海岸へ南下していくルートを進る。旅のシーンは車中での会話が多く、少年2人の奔放な性生活に関する会話が大半を占め、時折出てくるルイサの苦悩話とのギャップを生み出している。旅の途中で、少年達は互いが互いの彼女と性的関係を持ったことを暴露し、ルイサは旅先から夫に別れ



メキシコ田舎町の海岸

を告げ、二人の少年と性関係を持つ。旅は美しい海岸で終り、現地の猟師の案内で楽しいバカンスを過ごす。そして、少年達はルイサを残しメキシコシティに戻る。時が経過し、大学生になった二人は徐々に街で出会い、お茶を飲みながら世間話をし、その会話の中で、ルイサが二人と別れた後癌で亡くなったことが明かされる。

映画はメキシコの現在を旅を通じた2つの階層の出会いという視点から描いている。旅に出発する前の冒頭部分はそれぞれの社会階層の存在を示すことに割かれている。大統領出席のパーティーが上層階層を示す象徴であり、このパーティーでの出会いにより3人の上層階層としての位置づけが明確化されている。少年の家で働く田舎出身のメイド達の存在、貧困地区のインフラの不備から起こる交通事故などが下層階層を示す象徴であり、メキシコシティにおける日常社会での下層階層の姿を明示している。

旅は上層階層の3人が車窓から下層社会を垣間見るという構図で進んでいく。車中はあくまでも、メキシコ上層階層の怠惰な日常を描いており、外の社会とは隔離されている。車内での会話は永延と少年特有の性への欲求に費やされており、社会問題とは無縁の階層であることを印象づける。車内とは対照的に車外の状況はナレーションで示され、ナレーションが下層階層の状況を語っている。それは貧困を訴えてメキシコシティへ行進する原住民達、少年の乳母の出身地である山間の田舎の

風景、地方にも存在する乞食で生計を立てる人々の姿、開発により追い出される先住民達の現状などである。

このように真面目な議論をすると、映画が小難しい内容のものに捉えられてしまうかもしれない。しかし、映画は決して難しい内容の作品ではなく、メキシコの雄大な大地が感じられる青春ロードムービーである。前号で取りあげた「アモレス・ペロス」においても感じたことだが、メキシコ人の困難な状況をありのまま捉え受け入れていくという国民性が非常によく現れている。メキシコは常に隣国米国の影響を強く受け、その米国を嫌悪しながらその影響下で生活を送っている。映画の中でも、米国を嫌悪する表現が繰り返し示されているが、両国の関係は米国コンプレックスを持っている日本の戦後世代を思い起こさせる。

また、映画は71年ぶりの政権交代を実現した大統領選挙を控えた緊迫感を示しているという点で貴重である。筆者はこの映画が撮影されたのと同時期にメキシコ南部からメキシコシティへの視察を行い、映画とは若干異なるルートであったが、映画が示すそうした緊迫感をひしひしと感じたのを覚えている。

最後にこの映画を見るとききの留意点を軽く述べておきたい。せりふの多くは刺激的であり、下品な表現が多く出てくる。スペイン語は英語ほどポピュラーでないだけに、字幕に頼るしかない。しかし、この字幕はメキシコにおけるスペイン語表現の雰囲気を出せていないのではという印象を受けた。メキシコ映画自体が少ない状況で高い翻訳水準を求めるのは酷であるが、表現があまりにも馬鹿正直すぎ、それほど深い意味で発した言葉ではないのに、字面を正直にとらえて逐語訳しすぎている。筆者も翻訳に携わった経験を持つが、その難しさを改めて感じた。これから映画を見られる皆様は性的表現に関しては少し差し引いて見てほしい。関西弁でも、時に非常にどぎつい表現が聞かれるが、関西の出身者が話すのを実際に聞くと、それほどどきつきを感じさせないといった経験を思い起こして欲しい。

エクセター文学紀行

経営学部

安藤 聡

エクセターはイングランド南西部のデヴォン州の州都であり、およそ2000年前に古代ローマ人が建設した英国最古の都市のひとつである。エクセターという地名の語源は「エクス川の畔の(ローマ人の)要塞都市」ということであり、名前の通り街はエクス川を見降ろす丘の上にある。有名な大聖堂はノルマン時代にノルマン様式で設計され14世紀末に完成したものであり、その周辺には今でも当時の町並が残っている。

エクセターにゆかりのある文人として最初に思いつくのはジョージ・ギッシング(1857~1903)である。彼は小説家としては同時代のH. G. ウェルズやアーノルド・ベネット程には評価されていないが、それでも最晩年の作である『ヘンリー・ライクロフトの私記』(1903)は今なお日本でも文庫で版を重ねている。これは無名小説家ヘンリー・ライクロフト(もちろん架空の人物)が残した私記を「春」「夏」「秋」「冬」の4章に構成したという形を取っている。邦題は英語の原題 *The Private Papers of Henry Ryecroft* の直訳であるが、結果的に「私記」と「四季」を懸けていることになる。ロンドンの喧噪に疲れ人生のあらゆる競争に嫌気がさしたライクロフトは、エクセターの外れの田園に庵を構え静かな晩年を過ごす。彼の私記は周囲の自然の森羅万象への愛着と都会への嫌悪に満ちあふれている。ギッシングは実際1891年から93年までエクセターにいて、最初はプロスペクト・パーク24番地、次にセント・レナズ・テラス1番地に住んでいた。ライクロフトが人間社会に対して示す嫌悪には、ギッシング自身のそれが多分に反

映している。この作家はティーンエイジャーの頃に出逢った売春婦マリアンを救うべく盗みを働いて投獄され、釈放後にはアメリカとドイツを放浪したのちに22歳でマリアンと結婚、彼女が酒で体をこわして死去してからは街で偶然に知り合ったある有名な邸で働くイーディスと勢いだけで入籍し、不幸な結婚生活を送る。夫婦の不仲に加えて二児を抱えての貧窮生活であった。晩年の1899年（とは言えまだ42歳）に小説のフランス語訳の相談に訪ねてきたフランス人女性と恋に落ち、そのまま渡仏して同棲生活を始める。この同棲生活は幸福なものであったらしいが、それでも本国の妻子をも養わなければならない彼の貧窮に変わりはない。結局は大陸に渡ってほんの数年後に、それまでの極度のストレスのためか南フランスで短い生涯を終えることになる。作品の中でライクロフトが満喫している心地よい静寂と孤独は、ギッシングにとっては生涯叶わなかった理想なのである。

ジョン・ファウルズ（1926～ ）の代表作のひとつ『フランス人大尉の女』（1969、邦題『フランス人中尉の女』）はエクセターから東に約40kmの海辺のリゾート地ライム・リーズに設定されているが、小説の大きな転換点となる事件はエクセターで起きている。この作品の語りは20世紀後半の小説家が1967年のライム・リーズを舞台に小説を書くという二重構造になっていて、内側の小説では主人公チャールズ（ダーウィンかぶれの古代生物学が趣味の准貴族）が婚約者アーネスティナ（保守的な思想を持つ実業家の一人娘）と、「フランス人大尉の女」と渾名される謎の女サラとの間で揺れ動く。婚約を破棄してサラを追ったチャールズは、エクセターでついにこの女と関係を結んでしまう。第36章の冒頭には当時のエクセターの様子が描写されているが、サラが泊まっている宿は当時売春宿が林立する一画にあった。ここは「街の中心から川に向かって降りて行くところ」にあり、「チューダー様式の家が建ち並ぶ」あたりだというのが、エクセターにこのような地区が実在したのか、或いは単に小説中の架空の設定な

のかはまだ確認していない。彼女が宿泊しているエンディコッツ・ファミリー・ホテルが実在したか否かも未確認である。

英文学を専門としない人にとってはエクセターにゆかりの作家といえば、ギッシングやファウルズよりも、『ハリー・ポッター』シリーズの作者 J. K. ロウリング（1965～ ）であろう。ロウリングはエイヴオン州のチップング・ソドベリー出身ということになっているが、実際にはその隣のイイトで生まれ育った。幼い頃から読書を好んだが、大学進学に際して文学よりは幾分実用性のある言語学を両親が勧めたため、不本意ながらフランス語を専攻することになり、第一志望のオクスフォード大学に合格できなかったので第二志望のエクセター大学に仕方なく入学した。エクセター大学はエクセター・セント・デイヴィッツ駅（ロンドンを始め全国からの長距離列車が発着する、街外れにある大きな駅）から北に少し歩いた丘に広大な敷地を有する大学である。ロウリングは学生生活の最初の1年間を学生寮ジェシー・モンゴメリー・ホールで過ごした。その後はこのキャンパス内のラフロウダ地区にある学生用フラットで自炊生活となった。シティ・センターにある「ブラックホース」は彼女が最も気に入っていたパブで、また運河の近くの「ダブルロックス」にもよく行っていたという。ロウリングは結局大学時代を通して言語学にもフランス語にも興味を持つことが出来ず、本当なら専攻したかった英文学関係の本ばかりを図書館から借り出し、しかも期日までに返却しないことが多く延滞の罰金が50ポンド（約1万円）を越えたという伝説さえある。エクセター大学のトマス・ホールは『ハリー・ポッター』の舞台となる hogwarts 魔法学院の部分的なモデルになったと言われている。またエクセター周辺はギッシングのライクロフトも絶賛したような美しい田園が広がっているが、この風景がハリー・ポッターのシリーズの風景描写のインスピレーションになっていることは間違いない。

エクセターからトー川沿いをバーンスタブルまで行くローカル線は「ターカ・ライン」という愛

称で呼ばれるが、これはヘンリー・ウィリアムスン(1895~1977)の童話『カワウソのターカ』(1927)に由来する。この作品は主人公のターカが生まれてから獵犬と戦って死ぬまでを、同じひとつの河口に注ぐトー川とトリッジ川及びその支流、そしてその周辺の田園を舞台に物語る。若き日のウィリアムスは第一次世界大戦と家族との反目が原因で人間不信に陥り、デヴォン州の片田舎で一人隠者のような生活をしつつ、細々と文筆業を営んでいた。1920年頃のある日、彼がいつものように散歩を楽しんでいると、母親を近所の農夫に獵銃で撃たれて途方に暮れている子供のカワウソと出逢った。動物好きのウィリアムスは仔カワウソを連れて帰るが餌付けがうまく行かない。ところが丁度その頃彼の家で仔猫を育てていた母猫がいたので、この母猫が乳を与えカワウソの子は無事に成長した。やがてカワウソは名前を呼べば寄ってくるほどにウィリアムスンに懐き、毎日一緒に散歩するようになったという。ある日カワウソとの散歩中に、うさぎ捕りの罠にかかったカワウソを発見し、救出して連れ帰ろうとするが途中で逃げてしまう。負傷したこのカワウソを探してトー川とトリッジ川が合流する河口まで行くが見つからなかった。これらの経験に基づいて書かれた『カワウソのターカ』はその描写の美しさと正確さを絶賛され、「アラビアのロレンス」の名で知られるT. E. ロレンスをはじめ、ベネットやトマス・ハーディ、それにやはりデヴォンにゆかりのあるノーベル賞作家ジョン・ゴールズワージー(1867~1933)らによって高く評価されている。

ゴールズワージーは大河小説『フォーサイト家年代記』で知られているが、日本で最も親しまれている彼の作品と言えば『林檎の樹』(1916)であろう。いわゆる中編小説というくらいの長さの小説だが、ダートムーアというエクセターの西に広がる原野の大丘陵地帯と、エクセターの南にある洗練された海岸リゾート地トーキーを主な舞台とする。主人公の若い弁護士フランク・アーシャストはダートムーアを旅行中に農場の娘ミーガンに出会い恋に落ちる。ミーガンには既に婚約者がい

たが、フランクへの想いを抑えられない。駆け落ちのための準備として銀行に行くべくトーキーを訪れたフランクは、この地で休暇を過ごしていたパブリック・スクール時代の友人フィル・ハリデイと偶然再会し、その妹ステラに気に入られてしまう。純朴な田舎娘ミーガンと良家の令嬢ステラとの間で葛藤するフランク。小説はこの切ない夏の日から25年後に想い出のダートムーアを訪れたフランクが当時を回想するという語りになっている。この作品は何故か本国よりも日本で人気があり、少なくとも三通りの翻訳が新潮、岩波、集英社の各文庫にある。ゴールズワージーの文体は感傷的過ぎるほどに美しい英語だが、この美文を見事なまでに日本語で再現しているのは新潮文庫版である。またこの小説は『サマー・ストーリー』のタイトルで映画化されている。これも大変に美しい映画であるが、読んでから観ることを強くお勧めする。

ところでデヴォンといえばクリーム・ティーの本場である。午後の紅茶と一緒に食すスコーンに塗るためのクロテッド・クリームはデヴォンの特産品であり、そのためこのクリームは別名「デヴォンシャー・クリーム」とも称される。スコーンにはクリームだけでなくジャム(またはマーマレード)をも塗るのだが、この時にジャムをクリームより先に塗るのがデヴォン式である。「クリーム・ティー」だからといって紅茶にクロテッド・クリームを入れることだけは絶対にしないように。

【特集・韓国】

韓国における 出生時の習慣

現代中国学部
藤森 猛

2001年から2002年にかけて、私の弟（長野県在住）家内の妹（ソウル市在住）および私の所（愛知県）で、あいついで子供が出生した。生まれも育ちもソウル市である家内（李周遠：イ・ジウウォン）の出産・育児アドバイスを参照して、韓国の出生時の代表的な習慣とお祝いごとを紹介してみたい。

「미역국」(ワカメスープ)

韓国では出産後の妊婦はワカメスープ(미역국)を飲みつづける習慣がある。スープには、母乳や血液の成分として必要なカルシウム・鉄分・ビタミン・たんぱく質などが豊富に含まれ、母体の回復期(産褥期)には理想的な食べ物とされ、出産直後から毎日の食事で主要なメニューとして飲む(食べる)習慣がある。

材料は、干したワカメ(미역)、牛肉(쇠고기)、ニンニク(마늘)をベースとし、これにゴマ油(참기름)、塩(소금)、醤油(간장)などの調味料で味付けをしていく。

作り方としては、まず干しワカメを20～30分間水につけてもどし、3～5センチくらいの適当な大きさに切る。韓国では金大中(김대중)大統領の出身地でもある全羅道(전라도)でとれたワカ

メが有名であるが、市販されている乾燥ワカメを用いてもかまわない。干しワカメは水に戻すと膨大な量になり、日本式のワカメスープであれば20～30グラムあればスープ2～3回分の分量になるが、韓国式のワカメスープはこれでもか、これでもかといった具合にワカメを器に溢れんばかりに入れる。韓国ではスープは「飲む」(마시다)ではなく「食べる」(먹다)であることを実感する。また牛肉はかたまりの肉を2～3センチに細く切り、これにゴマ油・塩・醤油あるいは好みで胡椒(참깨)をかけ、しっかりとあえて下準備は完了する。韓国ではゴマ油・塩・醤油は、唐辛子からつくるコッチュジャン(고추장)とともに調味料のベースとなっている。

次に鍋を火にかけて、ゴマ油をひき、牛肉を炒め、焦げ目が少しついたところでワカメと細かく切ったニンニクを入れる。約1分ほどして白く濁った汁がでてきたら、お椀で5杯分ほどの水を入れる。煮立つまでは強火にし、その後20分ほど中火で煮て、最後に醤油などを少し加えて、風味のよいワカメスープができあがる。

「첫돌」(最初の誕生日)

日本では、出生後、1ヶ月くらいでお宮参りをし、出生後100日から120日の時、親戚や親しい友人などを家に招いて食事会を催し、赤ちゃんの食い初め(箸立、箸初め、ももか)を行う。韓国では百日(백일)の習慣は残されているものの、現在では、一般に満1歳の誕生日(돌)を盛大に祝う。

最初の誕生日のお祝いでは、様々な食べ物が準備され、お餅(돌떡)などの菓子類、スイカ(수박)、メロン(메론)といった果物類を盛大に飾って、韓国の服(한복)を身に付けた赤ちゃんの記念写

真を撮る。また赤ちゃんにエンピツ(연필)、糸(실)、お金(돈)など準備して、いくつかの品から一つを選ばせる。例えば赤ちゃんがエンピツを選んだら、将来は学者になり、糸を選んだら長生きをし、お金を選んだら金持ちになるというような占いを行うのが習慣となっている。このような1歳のお祝いは、最近ではホテルなどを借りて、100人程度の客を招いて、豪華盛大に行うのが普通になってきている。ソウルに住む家内の妹夫婦もその慣習に従った。

韓国においては、近年、少子化の傾向にあり、子供の数は日本と同様に1人ないしは2人となっており、また一方で伝統的に男子による相続制度の観念が残されている。よって、一人っ子として生まれた男児には、その一家の命運がかかってくるため、子供のお祝い事にはたいへんな準備と労力が費やされることになる。大切に育てられた男子は韓国語で「玉童子」(옥동자)と呼ばれる。なお子供の数が1人である家庭は、男子の出生を望むケースが多くなり、それを人為的に調整している面があるために、現在新生児における男子の割合が非常に高くなっており、社会的な問題となっている。(韓国における伝統的な出産・相続については、韓国映画『シバジ(씨받이)』[86年、イム・グォンテク(林權澤)監督]がその問題点を指摘しているので、観賞を勧めたい)

果たして、私の家にもソウルの家内の実家から大量の全羅道ワカメや高麗人参(고려인삼)が常時送られてくることになった。こうして家内が産院から退院したその日から、朝食でワカメスープを作るのが私の一日の日課となった。韓国では、ワカメスープを毎年の誕生日(생일)でも飲む習慣があり、スープを作ってくれた母(어머니)に出生時の感謝をすることになる。我が家では、ワカメスープを作っているのは父親である私であるので、子供に感謝されるのは母親となるかどうかは少し疑問である。

韓国の「姓名」と 日本の「氏名」について

法学部
常石 希望

(一)

「姓名」とは「なまえ」あるいは「人名」のことである。日本では「氏名」あるいはその一部を「苗字」とも言う。英語なら「Name」と言えば済むのに、上のごとく「なまえ」「人名」「姓名」「氏名」「苗字」などと多様な言葉を持つのが東洋の言語の妙である。

これらのうち歴史的に見て重要なのは「姓名」と「氏名」である。韓国には「姓名」という言語およびその文化は存在するが、「氏名」という言語と文化は日本にしかない。実はこの差が決定的な差である。

古来、中国や朝鮮半島では「姓不変」「同姓不婚」「異姓不養」という三者が「姓」に対する三大鉄則、従ってより本質的には「家族制度」に関する三大鉄則として考えられて来た。朝鮮半島では、朝鮮王朝時代を治めた大法典『経国大典』にこの思想がよく表されていて興味深い。

上記三大鉄則のうちまず「姓不変」というのは、男も女も生涯を通して自らの姓を変えないこと、特に女性は結婚しても姓を変えない点は日本と対照をなす。第二に「同姓不婚」とは文字通り同じ姓の者どうしは結婚できないこと。第三の「異姓不養」とは、養子(幼ない子供)は同姓の一族の中から取り、日本的な婿養子制度などは考えることもできないのである。いずれにしろ中国や朝鮮が鉄則として守り続けて来た「姓と家族制」に対し、日本だけが全く異なった孤立的態度を維持して来たことがわかる。

(二)

韓国の「姓」の概念をもう少し詳しく見るため上の三大鉄則のうち第2「同姓不婚」を例に取って考えてみたい。またそれに関連して、悪名高き「創氏改名」の実態を見たい。

「同姓不婚」の原則は、すでに高麗時代に始まり朝鮮王朝時代の500年間に定着する。そして実に、6年前の1997年まで「民法第809条」に堂々とうたわれ続けて来た法律であった。この法律のため泣いて別れた若いカップル、自殺にまでおよんだケース、結婚ならぬ同棲を生涯続け子供は私生児としてしか扱えなかった家族、これらは数知れないと言われる。筆者の知人にも、実際こうした人が存在した程に韓国では身近な問題でもあったのだ。

ところでここで「同姓不婚」とする場合の「同姓」とは何を指すのであろうか。日本人的考え方言えば、例えば「山田」という姓の人間は皆同姓であり、山田どうしの結婚禁止、これが「同姓不婚」だと判断しえよう。上述したごとくこれが日本人的「氏名」概念であるからだ。その特徴は二点に存す。第一、山田が「氏」であり、太郎が「名」であること。第二、山田という「氏」は普通は家族全員に共通していること。この二点が日本的「氏名」の特徴である。

しかし韓国ではすでに述べた「姓不変」の原則によって、女性は結婚後も姓を変えない。従って家族内にあっても、祖母や母や嫁はそれぞれ別姓(異姓)を持つのであって、「氏」と「姓」はまず

この点で明確に異なる。さらに2点目は、韓国の姓はいわゆる「本」あるいは「本貫」を含む点である。今これを上のように図示すると分かりやすい。

3世代6人という韓国ではよくある家族構成の図である。嫁いで来た者(祖母・母)が異姓である点、および広義の「姓」が金海や蜜陽、全州といった地名で示される「本」「本貫」(一族の源出身地)を含んでいる点がわかる。つまり「同姓不婚」の「同姓」とは「金」どうしの結婚禁止ではなく、韓国人にとっての本来の姓である「金海・金」どうしの結婚禁止の意であり、同じ「金」でも「金海・金」と「安東・金」は「同姓」に含まれない。韓国人の「姓」とは単なる金や李ではなく、「金海・金」であり「全州・李」なのであり、この点が日本人の「氏名」とは根本的に異なる点である。

(三)

「創氏改名」に関して一言。「創氏改名」は1939年11月公布され、翌1940年2月から8月を期限とし、6ヶ月以内でなされた。36年間におよび日帝植民地時代の最後の6年間のことであった。しかし「創氏改名」の具体的内容およびその実態に関しては余りにも多くの誤解や勝手な解釈に満ちている点は、一般によく認識されていない。「創氏改名」とは直接的には以下のごときものであった。

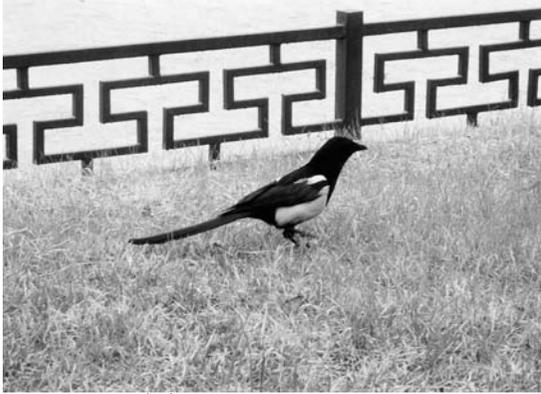
「広義の「姓」」			
[本]	[姓]	[名]	
金海	・ 金	・ 玉均	(祖父)
蜜陽	・ 朴	・ 孝和	(祖母)
金海	・ 金	・ 俊浩	(父)
全州	・ 李	・ 恩恵	(母)
金海	・ 金	・ 善一	(長男)
金海	・ 金	・ 信子	(長女)

図1

[本]	[姓]	【氏】	[名]
金海	・ 金	・ 松本	・ 玉均 (祖父)
蜜陽	・ 朴	・ 松本	・ 孝和 (祖母)
金海	・ 金	・ 松本	・ 俊浩 (父)
全州	・ 李	・ 松本	・ 恩恵 (母)

図2

先の「図1」と比較すればよく分かるように、それは従前の韓国「姓名」を残したまま、「氏」という家族全員に共通した日本的「家族制度」を強制することであった。従って直接的には、「韓国人



「韓国の国鳥、^{カササギ}カササギ」

韓国では、この鳥の鳴声を聞いた日には家族、親類、縁者からのよい知らせが舞い込んで来ると言われる。

～ソウル、秘苑にて～

から固有の姓名を奪った」とは言えない。上述のごとく、本来の姓名そのものは残した上での、「氏」の追加（創氏）であったからだ。ポイントは2点である。「姓不変」の鉄則を曲げ、家族全員に同一の「氏」を与えた点。もう一つは、「金玉均」という「姓名」を「松本玉均」という「氏名」に改めた点。また先の6ヶ月という申請期間に約80%が申請、なかには「李光洙 香山光郎」のごとく「名」まで日本風に変更する場合もあったが、6ヶ月という短期間で80%もが申請を済ませるとするのは余程の強制、強迫がなくてはとても達成できるものではない。ところで申請をしなかった20%はどうなるのか。「図2」の「松本」の部分に父権の姓である「金」が、家族全員に自動的に「氏」としてつけられた。つまり「金海・金・金・玉均」のごとく。

「創氏改名」が以上のごとくであれば、それは直接的には「韓国人の姓名を奪った」とか、韓国人が命ほど大切にしている「族譜（家系図）を断絶化させた」とは言えず、これらは誤解であるか後に勝手に与えられた解釈なのである。この点では、例えば小説 梶山季之『族譜』などはこの誤解に支配されていて、小説の「筋立てがまったく創氏改名の史実とかけはなれており、つじつまの合わない誤解と独り合点のオンパレードである 宮田節子、金英達、梁泰昊『創氏改名』明石書店、

1992、73頁、および「はじめに」参照」。

日帝が真に目論んだのは、こんな表層的な名前の変更などではなく、族譜の断絶化などでもない。このような主張は、かえって反論に打ちまかされてしまうしかない。日帝が目論んだのは、きわめて注意深く細心の考慮をした上で、韓国人の「姓名」はそのまま残し、「族譜」も断絶化しないように、日本的「氏」をしよばせ、よって「家族制度」そのものを日本化しようとする点に本来の眼目が存したのである。従ってそれは、「名前」の問題というよりは国家の基本単位である「家族、家庭」の改変の問題と言えよう。また数年後に始まる「朝鮮徴兵制」との関連も当然存した。「創氏改名」と併せて、朝鮮総督府は「婿養子、異姓養子」を大いに推奨しこれを同時併行的に制度化するのである。総督府発行の「創氏改名」の資料には「婿養子・異姓養子制」がワンセットになっているものもある。

初めに挙げた「姓」に関する三大鉄則、「姓不変」「同姓不婚」「異姓不養」のうち2者をワンセットにして崩し、よってその家族制度そのものを改変しようとしたのが「創氏改名」であったと言える。しかし、さすがに「同姓不婚」にはその時点では干渉できなかったようである。

それにも拘らず、日本の敗戦や解放後、再び三大鉄則を回復した韓国が、50年後の1997年まず「同姓不婚」を廃棄せねばならなかった点は、歴史の皮肉と言うべきであろうか。

あっと驚く 韓国語の比喻表現

経営学部

田川 光照

筆者は、韓国のKBS放送のサイト (<http://www.kbs.co.kr>) をよく利用している。このサイトはおもしろく、KBSのテレビ放送やラジオ放送をライブで視聴することができるほか、テレビニュースの SCRIPT やラジオドラマのシナリオなどを読むことができるのである(注)。そのラジオドラマの中に、KBS第1ラジオが毎週日曜日午前11時5分から放送している「イ・ミョンスク 弁護士 家庭法院 (이명숙 변호사의 가정법원)」というシリーズがあり、最近はこのシリーズのシナリオを集中的に読んでいます。ちなみに、このドラマは、ごく最近実際に起こった事件をドラマ仕立てにして再現し、その中で関係する法律の解説や、当事者の話などを挿入しており、読んでいてあきないのです。

たとえば、このような話がある。発端は1970年頃、妻子ある身でありながら浮気性の男がある未亡人にほれるのだが、離婚しないかぎり自分の家に入ったりしてもらっては困ると未亡人に言われる。すると、その男は妻に何も言わないままこっそりと離婚届を出してしまう。こうしてその男は未亡人の元に通うことになるのだが、まもなく未亡人の家で急死する。その男の妻は、夫の死亡届を役所に出す際に、自分が知らない間に離婚したことになっており夫の戸籍から除籍されていることを知る。しかし、彼女は女手一つで子供たちを育てなければならぬ生活に追われて、そのまま放置してしまったのである。それから30年ほどの歳月がたち、70才を過ぎるころから、彼女は夫の戸籍上で死を迎えたいと切に願うようになる。子

供たちは、当初、あんな父親だったし、戸籍上のことはどうでもいいのではないかと言うのだが、年老いた母親の願いは強まるばかりである。結局、子供たちは母親の願いをかなえてやるのが最高の親孝行であると考えようになり、離婚無効訴訟を起こすことになる。その結果、2002年8月9日、ソウル地方家庭法院(家庭裁判所)は離婚無効の判決を下し、戸籍が原状回復される。では、この訴訟は誰が誰を訴えることで提起されたのか。夫が生きていれば、妻が原告となり夫が被告となるが、夫がすでに死亡しているこのケースではそういうわけにはいかない。そこで、子供が原告となり、母親を被告として訴訟が提起されたのである。夫の死後1年以内であれば、妻が検事を相手に訴訟を起こすという道もあるが、このケースは夫の死後30余年が経過しているために、残された唯一の道が上のやり方であったということである。

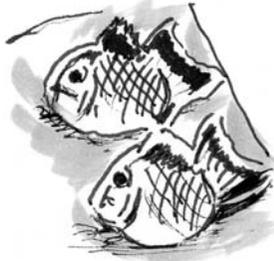
このような離婚や不倫にまつわる話、金銭のトラブルをめぐる話、医療事故の話、家庭内暴力の話など、日常生活の中で起こった実話を素材にしており、韓国の世相をかいま見ることができるのである。

さて、前置きが長くなったが、このシリーズのシナリオを読んでいて出会った、あっと驚く表現、日本語では考えにくいような比喻表現をいくつか紹介したいと思う。

敷居が擦り切れてなくなる：これは上で概要を紹介した話の中にあつたものである。離婚届を出してきたと言う男に、未亡人が自分の家への出入りを許す時に次のように言う。이제 우리 집 문턱 닳아 없어지겠네. 直訳すると、「これで我が家の敷居も擦り切れてなくなるわね」となる。履物の底あるいは衣服の裾が敷居にあたって、敷居が擦り切れるくらい足繁く通って来てちょうだいね、ということである。

たい焼きの型から抜き出したようだ：そっくりであることの比喻表現で、自分の出生に疑問を持った少年が、本当のことを言ってくれと父親に迫ると、父親が実の子供であることを納得させようと、목욕탕에 가면 사람들이 너하고 나하고, 붕어빵

틀에서 찍어낸 거 같다고 하잖아 .> と言うのである。直訳すると、「銭湯へ行くと、人々が、おまえとおれとはたい焼きの型から抜き出したようだと言うじゃないか」となる。つまり、たい焼き同士のようになんかだということである。まともな日本語に訳し換えると、「銭湯へ行くと、おまえとおれとは瓜二つだと言われるじゃないか」となるが、たしかに、2つの瓜よりも2つのたい焼きの方がそっくり度は高いなあ、と妙に感心させられる。



舌をかんで死ぬほどの恨みがあっても:もちろん、「どんなに大きな恨みがあっても」の意味で、原文は次の通りである。혀를 깨물고 죽는 한이 있더라도 개네들한테까지 피해를 입히진 않을꺼야 . 和訳すると「舌をかんで死ぬほどの恨みがあっても、その子たちまで巻き添えにすることはできませんよ」となるが、恨(한)の文化を彷彿させる表現である。なお、않을꺼야は않을거야を発音通りに表記したもの。

肝が腹から外に出る:夫婦げんかでのやり取りの中で出てくる。女房が야근하고 들어온 아내한테 빨리 밥 차리라 그러는 남편은 간이 배 밖으로 나와도 한참 나온 남자야 . («夜勤して帰ってきた女房に早く飯作れなんて言う亭主は、肝が腹の外へ出て出っ放しの男だわ」と言うので、亭主が내 간이 배 밖으로 나왔음 니 간덩이는 부어도 단단히 부은 거야 . 빨리 밥이나 차려 . 뱃가죽이 등에 붙었어 . («おれの肝が腹の外へ出ているのなら、おまえの肝っ玉は据わりすぎでかちかちに腫れた肝っ玉だ。さっさと飯でも作れ。腹の皮が背中にくっついた」と言い返すのである(나왔음は 나왔으면を、니는네を、それぞれ発音通りに表記したもの)。「肝が腹から外へ出て出っ放しの男」というのは「普通でない男」「異常な男」の意味だ

そうである。また、亭主が言い返している「おまえの肝っ玉は据わりすぎでかちかちに腫れた肝っ玉だ」は간덩이가 붓다をふまえている。「肝っ玉が据わって大胆になる」を意味する熟語であるが、文字通りには「肝っ玉が腫れる」である。韓国語には喧嘩の時に使う単語や表現がたくさんあるそうだが、それにしてもすさまじい。なお、「腹の皮が背中にくっついた」は日本語での表現とまったく同じである。

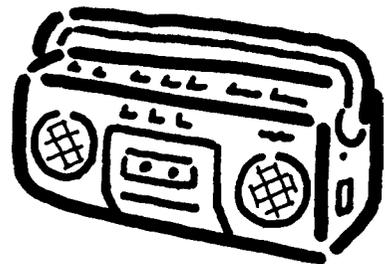
上のような表現に出会っていると、学習書に出てくる表現や文章がなんとも味気ないものに思われてくる。しかし、どの外国語の勉強でもそうだと思うが、入門・初級の段階では、基本的な単語、表現、文法事項などを身に付けるためには、どうしても無味乾燥な会話例や文章などで学習せざるをえない面がある。それを我慢しきった時に、新しい世界が開けるのではないだろうか。

なお、筆者は、上に紹介したような使いそうにはないがおもしろい表現や単語、할 말이 있으면 해 봐 . («言いたいことがあったら言うてみる») のような実際に使いそうな表現や単語で、入門・初級レベルの学習書に載っていないものであつて、Webページ上 (<http://marquis.aichi-u.ac.jp>) に公開しているので、興味があればアクセスしてみてください。

(注) テレビ放送やラジオ放送をライブで視聴したり、オンデマンドで提供されている放送済みテレビニュースを視聴するためには、Webページ上で会員登録(회원가입)(無料)の申し込みをする必要がある。その際、海外会員登録(해외회원가입)を選び、実名(실명) ID(아이디)、パスポート番号(여권번호)、パスワード(비밀번호)、E-mail アドレス(E-mail 주소)などを入力し、趣味などについてのアンケートに答えなければならない(けっこうたくさんあるが、回答は選択肢の中から選ぶだけで書き込む必要はない)実名はローマ字でよい(記入欄が小さく、筆者は名前を途中までしか書き込めなかったが、問題はなかった)、IDとパスワードもローマ字と数字の適当な組み合わせでよい。手続きを終えると、2~3日後に登録が完了し

た旨の(韓国語で)E-mail が送られてくるので、以後、加入申込時に入力したIDとパスワードでログイン(로그인)すればよい。なお、テレビニュースのスク립トやラジオドラマのシナリオを読むだけであれば、会員登録の必要はない。注意しなければならないのは、テレビニュースのスク립トと上に紹介した「イ・ミョンスク弁護士の家法院」のシナリオはInternet Explorerなどのブラウザ上で読むことができるが、それ以外のラジオドラマのシナリオは「アレア・ハングル」という韓国で一般的に用いられているワープロ・ソフトのファイル形式で提供されており、そのソフトがないと読めないということである。ただし、2002年3月16日以前に作成されたものは、ブラウザ上で読むことができる。(以上、2002年11月末現在)

生きた韓国語の宝庫なので、利用することをおすすめする。2年間、韓国・朝鮮語を第一外国語としてまじめに熱心に勉強した人であれば、大丈夫だと思う。ただし、100%理解しようとせず、概要が分かればよいという気軽な態度が大事で、そうでなければ挫折するであろう。また、大修館から出版されている『スタンダード・ハングル講座』の第5巻(ハングル読本)を通読しておくことをおすすめする。分かって分かってなくても(内容が非常に高度で分からなくても当たり前である)これを通読しておく、とくにドラマのシナリオを読む時に役立つ。



海外最新事情

イギリス

ユーロで英国庭園へ

ブレア首相はユーロ参加に積極的だが、一般的な英国国民の過半数はこの欧州統一通貨に対して未だ懐疑的である。2002年夏に何度か利用したロンドン～オクスフォード間の直通バス「オクスフォード・チューブ」は既にユーロで乗車賃を支払うことができるようになっていたが、これは今のところ英国ではきわめて例外的と言ってよい。

ところが2002年11月10日付の『インディペンデント』紙に次のような記事を見つけた。それは‘National Trust sites to take euro’というヘッドラインである。新聞の見出しにおける「to 不定詞」は未来を表わす。記事によれば、「ストーンヘンジ（原文ママ）やファウンテン・アビーを含む英国の有名な観光スポットへの訪問者は、今後入場券や土産物をユーロでも買えるようになることが、ナショナル・トラストで投票によって決まった」とのことである。ナショナル・トラストとは英国の歴史的建造物や自然の風景を保存する目的で1895年に設立された非営利団体である。英国式風景庭園の最高傑作のひとつスタウアヘッドも、レイコックの美しい村（映画『ハリー・ポッターと賢者の石』の一部の場面はここで撮影された）も、ドウヴァーの白亜の断崖も皆ナショナル・トラストが所有し保存しているのである。

このように、ある意味では英国的伝統の守護神とも言うべき存在であるナショナル・トラストが、国民感情からすればまだ決して受け入れられていない新しい通貨をいち早く導入するというのだから、これはひとつの象徴的事件なのである。スタウアヘッドばかりでなくヒドコット・マーナー、

シシングハースト・カースル、スタッドリー・ロイヤルなど英国庭園史に綺羅星の如く輝く名園への入場料を、これからはユーロでも支払うことができるようになるということだ。

今後は先ずいくつかの観光アトラクションで実験的に欧州統一通貨を導入するという「パイロット・プロジェクト」を実施し、そののちに全国のナショナル・トラストが所有するすべてのアトラクションでユーロを受け入れるようにするという。しかしながら、「すべてのレジがこの通貨に対応したものに置き換えられる」のは当分先のことになるだろう。こういうことに異常に時間がかかるのが英国という国なのである。

ところで、この『インディペンデント』の記事を読んでいて気になったことがひとつある。「ストーンヘンジ...を含む」という箇所がそれである。私の記憶に間違いがなければ、この世界遺産にもなっている古代遺跡はナショナル・トラストではなくイングリッシュ・ヘリティッジが所有していたはずだ。

（安藤 聡）

アメリカ

“ Nu shortcuts in school R 2 much 4 teachers. ”

最近の New York Times で (2002年9月19日) このような英語表現がアメリカの若者の間で頻繁に使われていると報じられています。もうお分かりかと思いますが (わからない?) これは “ New shortcuts in school are too much for teachers. ” (「学校の新しい近道 [省略法] は教師の手に負えない。」) のことです。つまり、本来のスペリングを簡略化し、Nu (= new) cuz (= because) のような省略形や、2 (= too) b4 (= before) l8r (= later) といった、音だけが同じ (近い) 単語に置き換えることで作文をするという書記法です。そのために学生の書いたものが読めない、さらには正書法に対する反乱だ、と危機感を強める大人 (主に中学・高校教師) が増えているという記事です。若者の言葉遣いは紀元前の昔から「大人」にとって揶揄・侮蔑・非難の対象でしたから驚くには当たりませんが、これはスピード重視のコミュニケーションが行われるチャットやEメールなどの書き言葉から教育現場に浸透してきた書記法です。一部の識者の中には、これによって若者が「書く」ことに親しみ、より速く書けるのならいいではないかという意見もあります。むしろ問題なのは、このような書記法を使うのではなく、使い分けの意識が低い点にあるのでしょうか。これは一頃日本でも流行ったポケベルの暗号にあたる用法です。しかし部分的にしか置き換えられないため、かえって暗号よりも異質さが目立つようです。(日本でもかつて といっても25年くらい前から10年間ほど 「丸文字」のような学校現場で弾圧を受けた文字形体がありました。) また、論点を主張したい時は笑い顔、反論する時は怒り顔、のような顔文字 (emoticon) を付加することで、情緒・意図を明確化することも行われているようです。(丸文字と一緒に使われた顔文字にも同様の機能があり、この点でアメリカのずっと先を行って

いたわけです。) また、この書記法のおもしろい点は、because を cuz に、before を b4 に置き換えるような経済性にあるだけでなく、wus (= was) のように一見徒勞とも思える置き換えが見られる点です。なぜこんなことをするのか、皆さんも胸に手を当てれば何となく思い当たるフシがあるのではないのでしょうか。

興味のある方は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.nytimes.com/2002/09/19>

[/technology/circuits/19MESS.html?8cir](http://www.nytimes.com/2002/09/19/technology/circuits/19MESS.html?8cir)

では最後に問題。次の略語 / 頭文字はどのような表現の代わりなのでしょう? Make a wild guess!

略語: ' oic '

頭文字: ' nm ' ' jk ' ' lol ' ' ttyl '

(片岡邦好)

ドイツ

ある作曲家の死

新聞に小さな死亡記事が載った。『天声人語』で紹介されなければ、おそらくほとんどの人が見逃してしまっただろう。亡くなったのはドイツの作曲家ノルベルト・シュルツェ氏、10月14日、91歳。彼はただ一曲の歌によってその名を知られた音楽家だった、その歌の名は『リリー・マルレーン』という。

第二次世界大戦時に若い兵士の間で流行したこの歌を最初に歌ったのは、家族をスイスに残してドイツに出稼ぎに来ていたラーレ・アンデルセンだった。突然の大ヒットにより彼女は前線慰問に駆り出される忙しい毎日を送っていたが、それも長くは続かなかった。彼女はユダヤ人である夫のもとへ亡命しようとして逮捕されてしまう。その人気ゆえに一命はとりとめたが、その後は歌うことを禁止され、人目を避けて暮らすことを余儀なくされる。

そしてドイツで禁止されたこの歌を世界に広く知らしめたのが、女優マレーネ・ディートリヒである。彼女は、ヒトラーから女優としてナチスに協力するように要請を受けたがこれを拒否し、アメリカに亡命してナチスと戦うことを決意する。彼女が武器としたのが、この歌『リリー・マルレーン』であった。彼女は前線の兵士たちに向かってこの歌を歌うことによって戦争の無意味さを問い続けた。

ラーレ・アンデルセンは1972年ウィーンでひっそりと亡くなり、マレーネ・ディートリヒも1992年に、母国の心ない人から「裏切り者」と呼ばれながらその生涯を終えている。作詞者ハンス・ライプも1983年に亡くなっている。関係者の中で、シュルツェ氏が最後までこの歌の運命を見守ったことになる。そして今この歌だけが残された。多くの人の心をひきつけたこの歌は、その物語とともに語り継がれ、歌い継がれてゆくことだろう。

(島田 了)

フランス

教育関係者のストライキ (2002年10月17日)

フランスでは、教育関係者のストライキやデモは珍しくないが、2002年10月17日、全国の幼稚園から大学までの教職員が、主として2003年度国家予算案での生徒監督 (surveillant) 削減などの教職員雇用政策や、地域間格差を生みかねない教育の地方分権化に反対して決起した。教育省発表の数字で教員の43.97%、教員以外の職員の36.77% (主催者側発表は教職員全体の60%以上) がストライキに参加し、街頭デモにはパリで1万5000人、マルセイユで7000人など全国で10万人以上の教職員が参加したとみられる。

これは、最近では2000年3月16日にあったものにつぐ規模である。その時の Manifesto は、教職員数の削減に直結する公務員雇用凍結に反対するもので、教職員の60%以上がストライキに参加、街頭デモにはパリで3万人、愛知大学の提携校オルレアン大学のあるオルレアンでも3000~5000人など全国で20万人が参加した (筆者はちょうどフランスセミナーの引率中で、パリでのデモを見た)。

フランスでは、この種のストライキやデモに対する一般市民の反応は概して好意的で、今回についても、国民の約73%が支持もしくは共感を抱いているとの調査結果があるようだ。未来の人材を育てるといふ重大な役割を担う教育の環境を悪化させるような施策にはほとんど反対するという風土が、フランスにはあるように思われる。

なお、教育関係者がデモをする場合、父兄や生徒も加わるのが普通の光景であることも付け加えておく。

(田川光照)

中国

上海と北京の最新流行

上海での新流行 “AA制”式家庭

家のローンも一緒に返済、子供の教育費も一緒に負担、海外旅行に出かける際もそれぞれ自分の旅費を支払う…。上海では、男性と折半で家計を負担しようとする女性がだんだん増え、いわゆる夫婦の「合弁経営」的な家庭が多くなってきた。それを“家庭AA制”と中国語で言う。上海市婦人連合会が最近発表した18地区の調査結果によると、68.4%の上海の女性が「家庭と自分の生活を維持するために仕事をする」と答え、52.0%の女性が「経済的な独立を求め、高収入を得るために仕事をする」と答えた。これらのパーセンテージは1990年に比較してそれぞれ12.2%と5.9%上昇した。ここ12年の間に、上海の女性たちの就職目的はさらに現実的となり、以前より自分の収入の家計における比重を一層重視するようになった。仕事に対する女性たちの見方のこのような変化が“AA制”式家庭の誕生を促し、“家計においての男女平等”というパターンが出現してきた。専門家たちの分析によると、現代の家庭構造は、以前の「女性は男性に依存する」というものから「男性が主導で女性は補助」というものへ、そして現在のような「完全に平等あるいは独立」へと変化した。さらに、このような“AA制”式夫婦は婚姻関係上の「協力者」であり、男女平等の現れであると指摘されている。その上、“AA制”式を選ぶ若者たちは家庭にいつか変化が生じた場合、例えば、離婚した場合など、財産の分割が容易であるということも考えているのではないかという分析もあった。いずれにしても、中国の伝統的な婚姻観念は時代とともに変化している。この“AA制”式の流行は今後も続いていくのだろうか。注意深く見守っていきたい。

北京の街で気になった中国語

靴売り場で店員にこのように勧められた。“小

姐，你穿这鞋很酷！买一双吧。”（お客様、この靴を履くととっても格好いいわ。買ったら。）気になったのは、この“酷”（kù）という字。“酷”はとくに若者の中で流行している新しいことで、英語“cool”の音訳であるという。中国語での“酷”は表す意味が広く、「かっこいい男性」、「かっこよくておしゃれな女性」、「個性のある人、事物」、「うつくしい建物」、「すばらしいショー」、「はやりの言葉」などを、全部この“酷”で表せる。さらに調べたところ、このような言い方もある。“扮酷”（bànkù）「格好をつける」、「比酷”（bìkù）「格好良さを競う」、「玩儿酷”（wánkù）「きざに見栄をはる」、「酷哥”（kùgē）「かっこいい男性」、「酷妹”（kùmèi）「かっこいい女性」、「酷妆”（kùzhuāng）「素敵な化粧・装い」、「酷发”（kùfà）「素敵な髪型」、「酷语”（kùyǔ）「すばらしい言葉」、「酷评”（kùpíng）「すばらしい評価」などである。15年間も離れた故郷は、どんなに変化しても、若者たちが求めているのは依然として「かわいさ」ではなく、「かっこ良さ」である。（鄭高詠）

P17の答え

- ' oic ' = Oh I see.
- ' nm ' = Not much.
- ' jk ' = Just kidding.
- ' lol ' = Laughing out loud.
- ' ttyl ' = Talk to you later.

編集後記

今回から編集担当者が交代しました。また今回から、「海外最新情報」のコーナーを新たに設けました。学生諸君の異文化に対する興味のきっかけになれば幸いです。ただ、原稿執筆から『語研ニュース』が配付されるまでにある程度の時間がかかるので、「最新」ではなくなってしまうこともあるのですが、その点は寛大にご理解下さい。

今回は韓国を特集しました。昨年の日韓共催サッカー・ワールドカップの影響もあってか、韓国・朝鮮語学習者人口が顕著に増加しています。これが一時的なブームに終わらないことを期待したいと思います。今後も、国別、テーマ別などの特集を適宜組みたいと思います。特集についての希望やアイデアなどがあれば、編集部にお知らせくだされば幸いです。

(S. A./M. T.)